

## 緩和ケア施設

# さとわ

No.5

### 緩和ケア施設「郷和」理念

1. 豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
2. その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
3. その人の希望に添って自宅での生活を支援します。

## 郷和、この1年

施設長 桜井金三

何をおいても、4月から長谷川聡医師が参加して下さり、医師3名体制となったことがあげられます。緩和ケア病棟では、あらゆる臓器の癌をかかえた患者様が過ごされますが、これでかなりきめ細やかなケアが出来るようになったと考えております。無論、これからも日々研鑽に励んでいくこと、決意を新たにしております。

緩和ケアも「がん基本法」のもとで、国の政策としておこなわれる時代になったわけですが、そのようななか、新潟県がん看護のレベルアップに寄与すべく、初めての試みとして「緩和ケア研修」を行っております。(12月まで続きます。) 県内から沢山のご希望がよせられました(各施設1名とさせていただきます)21名の方が熱心に研修されておられます。月1回・丸1日を使った講義3回と3日間の病棟実習のカリキュラムです。初めての試みでもありご参加くださった看護師の皆さんに満足していただけるかどうか心配もありますが、スタッフ一同日々自らの看護を振り返りながら取り

組んでおります。緩和ケアの普及のためこれからもより充実した研修を目指していきたいと考えております。今年こそはボランティア養成講座を開きたいと考えていましたが、緩和ケア研修を開催したため、スタッフの余裕がなくなり開催できませんでした。その結果、丸2年間新しいボランティアスタッフを迎えることが出来ませんでした。ボランティアは緩和ケアにとって不可欠の存在ですので、研修講座の持ち方を現実的なものに変えていくことも考えねばならないようです。遺族会は5月に3回目を行い、すっかり定着したように思われます。

郷和ホームページを全面的にリニューアルしました。アドレスは

<http://www.sinjinkai.or.jp/kanwa/>

です。是非1度ご覧ください。緩和ケアについて・郷和について、お知りになりたい患者様・ご家族にお勧めいただけたら幸いです。(2007/10/17)

## 郷和の印象

### 医師 長谷川 聡

平成19年春からここ郷和での勤務も半年が過ぎました。前病院で自分の専門科とは別に、緩和ケアについて研鑽してきましたが、実際にその現場に身を置き、感じたことを述べてみます。

緩和ケアはチーム医療ですが、その中心はやはり看護師さんだと実感しました。また看護助手、ハウスキーパーさんの存在も重要です。郷和のケアの質はかなり高く感じましたし、これからさらにレベルが上がるものと思います。一方、医師としての自分は、看護師さんの後方支援を行い、時に精神的支柱となり支えていく、のが良さそうです。

その他ソーシャルワーカーや薬剤師、栄養士、事務職さんなど専門職の皆さんは一般病院よりずっと身近で、切実な問題解決にかかせません。また、ボランティアさんの役割は思っていたよりも大きく、入院生活に潤いや彩りを与えてくれる存在でした。

さて自分自身を振り返ってみますと、痛みの緩和手技に目途は立ちましたが、他の苦痛症状はまだ習得中。患者さんへの対応はもう少しかなというところです。

ただこのような知識・技術は確かに重要ですが、樹にたとえれば枝葉であらうと再認識しました。大切なのは死を意識した人やその家族に接する時の心のありようだと思います。終末期は、できれば先送りしたいことですが、誰にも間違いなく訪れます。それは自然の営みともいえます。その終末を穏やかに受けとめられる心。そんな心をさらに磨きたいと思いました。印象深かったことを最後に。それは看取りの場に心電図モニターがないことです。モニターが刻む心音や心波形もそこにはなく、静かに時が流れるだけ。それが新鮮で、心地よく感じられました。



## 研修での学びと今後

### 看護師 小久保志奈子

私は今年、日本看護協会主催の緩和ケアナース養成研修に参加させていただきました。受講動機は看護師になって15年目、郷和で働き始めてから2年目ですが、まだまだ未熟で、もっと緩和ケアについて知識を深めたいと思いました。

この研修と一緒に参加された方々とも仲良くなり、いろいろな意見交換ができました。どの講義もととても勉強になりました。長いと感じた3週間の講義もあっという間に過ぎて行きました。8月にはピースハウス病院で実習し、ここでは「看護の基本」を再学習させていただいたと思っています。

当院でも今年から県内の病院の看護師を対象に研修をしています。私も微力ながら、実習のお手伝いをさせていただいています。養成研修で学んだことを研修にこられた方々のお役に立てるように努力していきたいと思っています。

緩和ケアにもっとも必要なもの「良好なコミュニケーションスキル・徹底した症状マネージメント・自律した日常生活の援助・家族ケア・希望を支えること」です。まだまだ勉強不足な私ですが、患者様のために、自分自身のためにスキルアップを目指していきたいと考えています。



## ライアー コンサート



今年の9月19日(水)にライアーコンサートを開催しました。

開設以来、毎年恒例になっているコンサートは、患者さま、ご家族だけでなくスタッフにも好評です。

ライアーの音色に心癒された秋の一日でした。

## 「郷和」の相談員として

医療相談員 青木 敬

この8月より、緩和ケア施設「郷和」の相談業務を担当することになりました。以前より、併設の南部郷厚生病院にて相談業務を行なっていましたが、「郷和」での相談業務は、新しい経験が多く戸惑うこともあり、手さくりで、相談業務を行なっている状態です。

今までは、地域の社会資源の紹介や福祉制度の活用方法等が、主だった相談業務でしたが、これらに加え、「郷和」では、患者様やご家族の抱えている心の不安に対して、不安を軽減

するお手伝いが重要な相談業務だと感じています。

日々、患者様やご家族との関わりを通じて、試行錯誤を繰り返しながら、医療スタッフ・ボランティアの方々と協働し、「郷和」を取り巻く自然環境が、患者様やご家族の心を癒してくれるように、癌という病気を抱えて、「郷和」にこられた患者様やご家族の心の不安が、少しでも軽減されるように、努力をしていきたいと思っています。

### 編集後記

今年の8月で当施設は丸6年を迎えました。

今年から緩和ケアを広めるために一般病棟、訪問看護師を対象に緩和ケア研修をはじめました。今後も積極的に緩和ケアの啓蒙を行なっていきたいと思えます。

### 「郷和」利用状況

(H.18年4月～H.19年3月)

入院患者数	124名
一日平均入院利用者数	15.7名
平均病床利用率	78.9%
平均在院日数	49.9日

発行年月日 平成19年11月1日

編集・発行 南部郷厚生病院 併  
緩和ケア施設「郷和」

〒959-1704 新潟県五泉市愛宕甲2925-2

TEL(0250)58-6111(代) FAX(0250)58-7300